

# 伝統文化を未来に伝える

## —イメージング技術を活用した社会貢献活動

キヤノン(株) CSR 推進部  
部長 木村純子

企業は社会の公器として、健全で公正な事業活動を通じ、よりよい社会の実現に貢献していくことが求められている。企業規模の拡大やグローバル化の進展にともない、企業の果たすべき社会的責任は、これまでも増して大きくなっている。このような環境の変化を踏まえ、キヤノンはグループで統一した姿勢をより明確に打ち出すため、2012年1月「キヤノングループ CSR 活動方針」を制定し、この方針のもと、世界各地で「人道・災害支援」「環境保全」「社会福祉」「地域社会」「教育・学術」「芸術・文化・スポーツ」の6分野において、その地域に根ざした活動を展開している。今回はそのなかから、これまでキヤノンが本業で培ってきた『イメージング技術』を有効に活用した社会貢献活動について3つの取り組みを紹介する。

### 貴重な文化財を後世に伝える

屏風びょうぶや襖絵ふすまゑといった日本古来の貴重な文化財のなかには、海外に渡ったり、国内にあっては劣化防止のためや、国の定めにより、私たちには限られた期間しか目にすることができない作品が数多く存在する。そこで2007年3月、キヤノンは特定非営利活動法人京都文化協会とともに「綴つづりプロジェクト」(正式名称：文化財未来継承プロジェクト)を立ち上げた。これは、キヤノンの最新のデジタル技術と京都の伝統工芸の技を融合させ、オリジナルの文化財に限りなく近い高精細複製品を制作し公開することで、多くの人に日本の貴重な文化財の価値を身近に感じてもらうことを目的とした取り組みである。

海外の美術館などに所蔵された屏風・襖絵を始め、日本古来の貴重な文化財をデジタル一眼レフカメラで多分割撮影し、そこで得られた高解像度なデジタル画像データに独自の高精度な色補正処理を行った上で、大判プリンターを活用して原寸大に出力。必要に応じて金箔きんぱくや表装を施すなど、デジタル技術と伝統工芸を融合させ、オリジナルの文化財に限りなく近い高精細複製品を完成させている。

これまでに、多分割撮影を可能とする専用旋回台の使用や、独自のカラーマッチングシステムを採用したことにより、制作期間を大幅に短縮。オリジナルの文化財にかかる負担を軽減するとともに、よりオリジナルに忠実な色再現を実現してきた。

高精細複製品は、オリジナルの文化財の現所蔵者あるいは海外に渡る以前にその文化財を所有していた社寺や博物館のほか、大学、文化財にゆかりのある地方自治体などへ寄贈され、各地で一般公開が行われており、貴重な文化財を多くの人々に間近に鑑賞していただいている。また、日本の歴史・芸術・文化を伝える生きた教材として教育



風神雷神図屏風／俵屋宗達筆の高精細複製品を公開(建仁寺・京都)

の場でも活用されており、本プロジェクトが従来のデジタル・アーカイブの考え方から一歩踏み込んだ、新しい試みとなっている。

## 少数民族の伝統文化を記録・保存

キヤノン中国では2009年から、中国無形文化財保護センターや地方政府の協力のもと、少数民族の文化保護をサポートしている。これは、中国の少数民族に古くから伝わる伝統文化を写真や動画で撮影、データベース化し、未来へと継承するために活用するものである。

例えば、2010年からは中国の苗族<sup>ミャオ</sup>の文化に注目。銀の飾り物作り、苗刺繍<sup>ししゅう</sup>、芦笙<sup>ろしゅう</sup>（アシの茎を管にした管楽器）作り、そして芦笙舞を記録するプログラムを実施している。このプロジェクトチームは無形文化財保護の専門家と優秀な写真家らで構成しており、貴州省に多く住む苗族の暮らしぶりを丹念に記録。滞在中に4万点もの写真と200時間にわたる動画を撮影し、これらの記録を選別したのち、中国無形文化財保護センターに提供した。また、少数民族保護を呼びかけ、厳選した写真や映像を一般に公開するなどの活動も行っている。



少数民族・苗(ミャオ)族の装飾品を記録撮影(中国)

## 博物館の所蔵物をデジタル記録

キヤノンメキシカーナでは、2011年からメキシコ市内にある国立人類学博物館の所蔵物をデジタル化するデジタル・アーカイブ構築プロジェクトに協力している。この博物館は、メキシコ各地の遺跡から発掘されたプレヒスパニック期の貴



国立人類学博物館での活動風景(メキシコ)

重な出土品を所蔵するメキシコ史上重要な博物館で、アステカ文化などの先住民の暮らしや文化についての展示を見ることができる。当プロジェクトは3段階からなり、第1段階では現在博物館に展示されている所蔵物のうち、約7700点をデジタル記録化。第2段階では、約12万点におよぶ所蔵物のデジタル記録化、第3段階では博物館の所蔵物が記載されている書類や記事、古い写真などのデジタル記録化を行う。キヤノンの専門家たちが、カメラ、レンズ、ストロボを厳選し、小さいものから2m以上の大きな所蔵品までの確に撮影できるようサポートしている。2010年12月に第1段がスタートし、プロジェクトの完了は2015年を予定している。

\*

キヤノンには創業当時から、より良い製品を作り社会に貢献していくという精神が企業文化として定着している。今回紹介した活動のように、技術力の高い製品や優れたサービスを通じて社会の発展に寄与するとともに、共生という企業理念のもと、地球環境の保護や災害地域への人道支援、芸術・文化の振興などを積極的に推進してきた。

今後もよき企業市民として社会的責任を果たし、さまざまな課題を解決する社会貢献活動をグローバルに展開していきたい。そして、よりよい社会の実現に貢献することで、親しまれ、尊敬される真のグローバルエクセレントカンパニーを目指していきたいと考えている。

◆キヤノンのCSR活動

<http://web.canon.jp/csr/>